

I. はじめに

- (1) 調査対象地；滋賀県の湖北域に位置する木之本町は、人口約9800人、世帯数約2800戸（1996年産）の米作を中心とする町である。田居は木之本町の市街域から琵琶湖側にやや離れた、賤ヶ岳の麓に広がる、まとまりのある集落である。
- (2) 調査年月日；1997年8月17日
- (3) 話者；横田よね子氏 1915年（大正4）生 農業
- (4) 調査者・調査場所；横田氏宅で、井上が面接で行なった。
- (5) 調査方法；当該調査票による質問調査。
- (6) 表記方法；方言事象はカタカナで表記する。当該の事象のアクセントは高音部に棒線を付し、文アクセントは上昇を（<sup>ˆ</sup>）で、下降を（<sup>ˋ</sup>）で示す。また、文中・文末の特徴的な緩慢な上昇調を（<sup>ˊ</sup>）で表す。

II. 調査結果

1. 尊敬表現

1-1 対者敬語

- (1) A お前は オマエモ 元気かね タツシャカ<sup>ˊ</sup>ー  
 B あなたは オマエモ 元気かね マメデ イハル 子  
 C あなたは アンタモ 元気かね オゲンキデス 万
01. ○アン<sup>ˊ</sup>タチュウ コトバワ チョット <sup>ˊ</sup>ホ<sup>ˊ</sup>レ ナンカ タニン<sup>ˊ</sup>キ<sup>ˊ</sup>ョ<sup>ˊ</sup>ーギ  
<sup>ˊ</sup>スギル。マ <sup>ˊ</sup>ヨッポド コー <sup>ˊ</sup>アノ ナンデス ワ。<sup>ˊ</sup>メ<sup>ˊ</sup>ウエノヒト<sup>ˊ</sup>ナン<sup>ˊ</sup>トカ  
 ユーバワイ<sup>ˊ</sup>ワ アン<sup>ˊ</sup>タチュウ コ<sup>ˊ</sup>トバ ツカイマスケ<sup>ˊ</sup>ド <sup>ˊ</sup>ナー。<sup>ˊ</sup>ツレド<sup>ˊ</sup>ーシャ  
 ッ<sup>ˊ</sup>タ<sup>ˊ</sup>ラ オマ<sup>ˊ</sup>エチュウ コ<sup>ˊ</sup>トバ。「あなた」という言葉はちょっとほれなんか他人行儀すぎる。まあほどこうあのなんですよ。  
 目上の人とかいう場合は「あんた」という言葉を使いますけどねえ。友達どうしたら「おまえ」という言葉。
- (2) A あした家に居るか アシタ ヤンス 万。/アシタ イヤンス 万。  
 B あした家に居るか アシタ オウチニ イハリマス。/~ オラレマス カ。  
 C あした家に居るか アシタ オウチニ イヤハリマス 万。
- (3) A あした行くか アシタ アンタ イカハリマス 万。/アンタ 下ー アシタ  
 イカンス 万。  
 B あした行きますか アシタ イキマス 万。下ーデスー。  
 C あした行きますか アシタ ドー ヤ。イカハリマス 万。
- (4) A 温泉に行かないか ドーヤ。アシタ オンセンリヨコガ アルヤン。イカ<sup>ˊ</sup>  
 レン 万。  
 B 温泉に行かれませんか イカ<sup>ˊ</sup>ンセン 万。  
 C 温泉に行かれませんか アンタ アシタ オンセンニ ドーデス。イカハリマ  
 ス 万。
- (5) A しますか 子ニカ シハリマス 万。

- B されますか チンカ シハリマス 万。
- (6) A 見ましたか ミハリマシタ 万。/ミチッタ 万/ミヤッタ 万。  
B 見ましたか ミハリマシタ 万。
- (7) A ゆうべは何時に寝ましたか ユーベ チンジゴロ ネヤッタ 万。  
B ゆうべは何時に寝ましたか ユーベ チンジゴロ'ー ヤスミナハッタ。  
C 寝てください ソノ ベットニ ネテクダサイ。
- (8) A どこに行っているか 下コ イカハル 万/下コ イカール 万。  
B どこに行っていますか 下コ イカハリマス 万。  
C どこに行っていますか 下コソ イカハリマス 万。
- (9) A どうぞ食べてくれ アンタ コンチンヤケド チー。タベトクレ。  
/〜。タベテ チ。後者がより親しい(チカシー)とき。  
B どうぞ食べてください アンタ 下ーデスー。タベトクレヤス。  
C どうぞ食べてください コレ 下ーゾ。アガットクレヤス。
- (10) A その写真を私に見せてくれないか ワタシニモ ミセテ チ。  
B その写真を私に見せてくださいますか アン'ター ミハッテガラ ワタシニモ ミシエートクレヤス。  
C その写真を私に見せてくださいますか スイマセンゲド チョット ミセテ モライマス 万。

1-2 第三者敬語

- (11) A あしたは家に居るだろう イヤンスヤロ。  
B あしたは家に居るだろう オウチニ イハルヤロ。  
C あしたは家におられるでしょう イハルヤロ チー。
- (12) A 居なかった アスコ ヨセテモロタゲド ルスヤッタ ワ。  
B 居なかった アスコ ヨセテモロタゲド ルスヤッタ ワ。  
C 居なかった チンカ ヨーシガ アッテ デテハッテ イハレナシタ。
- (13) A そう言った アノ ヒトラワ ソー ユーテハッタ 予。  
B そう言った ジューショクサンガ コー ユーテハリマシタ。
- (14) A 今そこに行っていた チョット 下ナリ イッテタンヤ。  
B 今そこに行っておられた イヤハッタ 予。  
C 今そこに行っておられた イッテハッタ 予。
- (15) A 友達が来ている キテハール
02. ○ウ'チ キテ'ハ-ル'デ ホイ'デ マー 'アン'タモ イッショ'ニー  
イッ'プク 'サー'ン'セー'ン 'カ。家に来ておられるから、それでまああなたも一緒に一服しませんか、  
B 来ている キテハール  
C 来ている キテハリマスンヤ
03. ○イ'マ 'キテハリマス'ン'ヤ。イッショ'ニー 'オ'チャ イッ'パイ ノンデ  
イカ'レン 'カ。イッ'プクシテ イットクレ'ヤ'ス。今来ておられますよ、一緒にお茶一杯飲んで  
いませんか、一服してってください。
- (16) A 仕事をしている シゴトシテハル

- B 仕事をしている シゴトシテハリマス
- (17) A 見せてもらった オモシロイ ホンヤ ミセテモローデ  
 B 見せてもらった ミセテモロタ  
 C 見せてもらった ミセテクレハッタ デ
- (18) A 見せてくれた ミセテモロタ  
 B 見せてくれた ミセテクレハッタ デ/ミセテクレヤンダ (〜クリヤーンタ)  
 C 見せてくれた ミセテクレハリマシタ デ
- (19) A 私にくださった アノ オバーサン 子。ワタシニ コンナ ヌズラシモン  
 クレハッタ。  
 B 私にくださった コエンサンガ (ご健さん) コンナモン ワタシニマデ 子。  
 クレハリマシタ。
- (20) A いただいた オバサン ニ コンナ エーハナオ モロタンヤ デ。  
 B いただいた コノ ヨイ ハナ 子。ゴジューショクサンカラ イタダイタ  
 ンヤ デ。/〜 イタダカシテ モライマシタ。後者がより丁寧。

## 2. 謙譲表現

### 2-1 謙譲表現

- (21) A 私も ワタシ<sup>レ</sup>モ オカゲサンデ ママデ オイテモロテマス/ワシモ (親しい間柄で女性も使う)
04. ○「マメ」デ 「ヤンス」カ。⇒「ワシ」モ 「ナ。コナイダカラ」カ「ゼ」ヒー「テ」  
 「ヨワッテテ」ン 「ヨ。元気ですか、ごわたしもね、こないだから風邪ひいて困っていたんだよ。  
 B 私も ワタシモ  
 C 私も ワタシモ
05. ○「ワタシモ マー オカゲサマ」デ 「タッシャデ」 オイテモロテマ「ス。  
 わたしもまあお母さまで達者でいらっしゃいます。
- (22) A 十分に食べました モー ワタシモ ジューブン ヨバレタデ ナ。  
 B 十分に食べました タクサン イタダキマシタ
- (23) A 持ちましょう ヤイ 下ーヤ。ホンナ オモタイ ニモツ ワシガ ハンブン  
 モッタロ ホーン。  
 B 持ちましょう ワタシ モタセテモライマスデー ドーゾ。
- (24) A 待たせたね チョット アンタ スマン 子ー。ワタシ カッテシテデー  
 子ガイコト マタシタ 子ー。  
 B お待たせしました 子ガイコト マタシテ スマンンダ 子。  
 C お待たせしました スミマセン 子。マタセマシタ。
- (25) A 駅で待っているよ エキマデ イッテ マッテル ワチ。  
 B 駅で待っていますよ ワタシ エキマデ サキ ヤラシテモライマスデ  
 エキデ マッテマス。  
 C 駅で待っていますよ サキ ヤラシテモロテ エキデ マッテマス。
- (26) A 言ってくれ スダ イヌサカイ チョット ソーユートイテ 子。  
 B 言ってくれ チョット ウチノ ホーエモ チョット ワタシ オソーナル

サカイニ マタ ソノウチニ カエルサカイテ ユートイテ 予。

- C 言ってくれ マ オセワニ ナリマスケドー チョット ヒトコト ユーテ  
モラエマセン 方。
- (27) A これをやろう アンタ コレ 下ーヤ。  
B これをあげましょう アンタ コレ 下ーヤ。チョット ツコテモラエン 方。  
C これをあげましょう チョット コレ スイマセーン。ソマツデスケド  
ツカッテモラエマセン 方。

## 2-2 身内敬語

- (28) A 買ってやった コーテヤツタ  
B 買ってやった コーテヤツタン 百  
C 買ってやった コーテ チンシマシタ
- (29) A 主人はもう帰っている シュジン カエツテマス  
B 主人はもう帰っています シュジン カエツテマス

## 3. 丁寧表現

- (30) A 行くよ アシタ イク デ/ソーヤ 予。ワタシモ マ イッショ'ニ  
ツレテイッテモラオカト オモツテルヤケド。  
B 行きます ソーヤ 予。ワタシモ マー マメデ オイデモラエタラ ヤラシ  
テモライマス。
- (31) A 寒いね サムイ 予ー。  
B 今日は寒いね サムイ 予。  
C 今日は寒いですね キョーワ サブイデス 予。  
オサムーゴザイマスは朝の挨拶。
- (32) A 居るよ イル デ。  
B 居ます アー アシタ イマス。
- (33) A よかったねえ アー アンタ ホン カエツテキハッテ ヨカッタ 予ー。  
B よかったですねえ ダンキニ 予レテ ヨカッタ 予。 /アー アンタ  
ナガイ コト ニューインシテハッタノニ マー タイインガ デケテ  
オメデトーゴザイマス。 後者がより丁寧。  
C よかったですねえ 予オツテクレハッテ ヨロシカッタ 予。
- (34) A そうか アッ ホー カ予。  
B そうですか アッ ホーデス 方。/サヨー 方。 後者は稀。  
C そうですか アッ ソーデス 方。/ホーデス 方。後者がやわらかい言い方。

## 4. 人間関係に応じた敬語表現

### 4-1 特定表現の待遇表現

- (35) その角を曲がって右に行くと ソン シトヤツタラ ミシノ ココニ ミチガ  
アリマスデ ソレオ ミギニ マワツテクレヤス。サンダンメデス。

(36) とんでもない トンデモナイ 「とんでもございません」は言わない。

#### 4-2 多人数場面の待遇表現

(37) 世話役を引き受けるときのあいさつ

ジアンモ イタランデ 子。ワタシミタイナ アキマセン。ワタシデモ  
デキルコトヤツタ'ラ サシテモライマスゲドモ ソンナン 子カ子カ  
デキルヨーナモンデ ゴザイマセンノデ。

(と、ひとまず断る。どうしてもアガレン場合には)

モー ワタシミタイナ 子。コンナ モンデモ マタ デキマシタラ  
マタ イッショケンメイ ムラノコト子ラ マー デキルコトダゲワ  
サシテモライマスゲドモ ムツカシコトワ モー 下ーカ イマカラ  
オコルシクダサイ。

(38) 今度の旅行には参加者が少ないので、皆さん参加してほしい

スクナイサカイニ イケル ヒト イッテホシ。

(行けそうな人が行かないと言う場合には)

アンタラ イケル ガ子。カラダモ タツシャデ イハルンヤシ ホンデ  
イエガ デヤスイシ 子ーンデ イカハレンヤ。下ーカ アノ オ子ジヨー  
ニ 子。キョーリヨクシテ イッテモラエン 方。

#### 4-3 位相による待遇表現

(39)

1. お寺の住職さん ①オアツーゴザイマス ②キョーワ 下コゾエ ゴクローサンデ  
ス 方。
2. 校長先生 ①アツ コーチョセンセデス 方。アラー デノー イツモ オセワニ  
子リマシデ。②キョーワ 下コゾエ ゴクローサンデス 方。
3. 見知らぬ年配の男性 ①(挨拶されたら)オハヨーゴザイマス。 ②聞かない。
4. 見知らぬ年配の女性 ①(挨拶されたら)オハヨーゴザイマス。 ②聞かない。
5. 顔見知りの年上の男性 ①オハヨーゴザイマス ②キョーモ ゴクロサンデ。  
下コゾエ イキマスンヤ。
6. 顔見知りの年上の女性 ①オハヨーゴザイマス ②キョーモ ゴクロサンデ。  
下コゾエ イキマスンヤ。
7. 10歳ほどの年下の見知らぬ男性 ①オハヨーゴザイマス ②聞かない。
8. 10歳ほどの年下の見知らぬ女性 ①オハヨーゴザイマス ②聞かない。
9. 同級生の男性 ①オハヨサン/オハヨ ヨー タツシャデ キバツテハルンヤ 子  
②キョーワ ホジデ ハタケ イカハルン 方。
10. 同級生の女性 ①オハヨサン/オハヨ ヨー タツシャデ キバツテハルンヤ ナ  
②キョーワ 子ンカ ホカノヨージデ アルキハッタン 方。タツシャデ  
ヨロシ 子。
11. 10歳ほど年下の顔見知りの男性 ①オハヨーサン/オハヨ/オハヨーゴザイマス

②こちらから聞かない。用事があれば話す。

12. 10歳ほど年下の顔見知りの女性 ①オハヨー

②こちらから聞かない。用事があれば話す。

13. 近所の中学生の男の子 ①オハヨ ②聞かない。

14. 近所の中学生の女の子 ①オハヨ ②聞かない。

### Ⅲ. 総括 (まとめ)

(1) 助動詞「ハル」が基本である。尊敬語から丁寧語への移行過程にあるようだが、待遇品位は動物に使うほど低下してはいない。「イカハル」は「イカハル、イカール、イカカル」のような音変化が見られる。

「ンス」は親しい者・子どもなどに使用し、待遇品位は「ハル」に比して低い。

07. ○アシ<sup>カ</sup>タ ナン<sup>カ</sup> サンス<sup>カ</sup>。明<sup>カ</sup>なん<sup>カ</sup>かするの。

08. ○ミト<sup>カ</sup>コーモンサ<sup>ン</sup> ナ。ミヤ<sup>カ</sup>ンタ<sup>カ</sup>。梶<sup>カ</sup>野<sup>カ</sup>さん<sup>カ</sup>ね。駄<sup>カ</sup>か。

09. ○ヒ<sup>カ</sup>ガ クレル<sup>カ</sup> デ。オ<sup>カ</sup>ト<sup>カ</sup>ーサン<sup>カ</sup> オ<sup>カ</sup>カ<sup>カ</sup>ーサン<sup>カ</sup> マッテハ<sup>カ</sup>ル。カエラン<sup>カ</sup>セ。

田<sup>カ</sup>が<sup>カ</sup>群<sup>カ</sup>れるよ。お父<sup>カ</sup>さん。お母<sup>カ</sup>さんが<sup>カ</sup>構<sup>カ</sup>っている。お帰<sup>カ</sup>りなさい。

「ゴザル」は待遇品位は高いが、文体的に古い言葉と意識されており、主体が主に神仏などに使用が限定されるようである。

10. ○コ<sup>カ</sup>コノ<sup>カ</sup> コン<sup>カ</sup> ホトケサン<sup>カ</sup>ワ スワッ<sup>カ</sup>テゴザル<sup>カ</sup> ナ<sup>カ</sup>ー。このこの仏<sup>カ</sup>様は<sup>カ</sup>迷<sup>カ</sup>って<sup>カ</sup>いら<sup>カ</sup>っしゃ<sup>カ</sup>るな。

11. ○ゴジュンザイノ<sup>カ</sup> ホトケサンガ<sup>カ</sup> ゴザッ<sup>カ</sup>タ<sup>カ</sup> デ。ご運<sup>カ</sup>在<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>仏<sup>カ</sup>様は<sup>カ</sup>いら<sup>カ</sup>っしゃ<sup>カ</sup>った。

12. ○オ<sup>カ</sup>ヒーサ<sup>ン</sup> デテゴザ<sup>カ</sup>ッ<sup>カ</sup>タ。お父<sup>カ</sup>さん<sup>カ</sup>がお<sup>カ</sup>出<sup>カ</sup>になった。

さらに「ハル」が下接する場合がある。

13. ○ホトケサンガ<sup>カ</sup> ゴザハッ<sup>カ</sup>タ。仏<sup>カ</sup>様が<sup>カ</sup>いら<sup>カ</sup>っしゃ<sup>カ</sup>った。

丁寧の助動詞「ドス」は「デス」に比べて使用頻度は低い。やわらかい物言いとなる。

14. ○アレ<sup>カ</sup>ワ ウチノ<sup>カ</sup> ハタ<sup>カ</sup>ケ<sup>カ</sup>ド<sup>カ</sup>ス。あ<sup>カ</sup>は<sup>カ</sup>うち<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>畑<sup>カ</sup>です。

「ヨル」は下向き(軽卑)の待遇表現をしたてる。人間の行為に用いることはほとんどないようで、「汚い言葉」との意識が強い。

15. ○イ<sup>カ</sup>ヌ<sup>カ</sup>ガ<sup>カ</sup> キヨッ<sup>カ</sup>タ。火<sup>カ</sup>が<sup>カ</sup>や<sup>カ</sup>が<sup>カ</sup>った。

(2) 〈行くこと〉を対者に言う場合に、丁寧な順に並べると／イットクレヤス／イキチハレ／イカンモ／イケヤ／イケ／となる。「イキナハレ」以下は主に家族内で用いる。

(3) 文中・文末の特徴的な緩慢な上昇調(´で表記したもの)の文アクセントは、聞き手へのやわらかいはたらきかけであり、音律面での待遇表現であると考えられる。

16. ○アン<sup>カ</sup>タモ<sup>カ</sup> タッ<sup>カ</sup>シヤ<sup>カ</sup> カ<sup>カ</sup>ー。ア<sup>カ</sup>ー マ<sup>カ</sup>メデ<sup>カ</sup> ヨカッ<sup>カ</sup>タ<sup>カ</sup> ナ<sup>カ</sup>ー。

あ<sup>カ</sup>なた<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>達<sup>カ</sup>者<sup>カ</sup>か。あ<sup>カ</sup>あ。元<sup>カ</sup>気<sup>カ</sup>で<sup>カ</sup>よ<sup>カ</sup>か<sup>カ</sup>た<sup>カ</sup>ねえ。

(4) オタチノホトケサン(お立ちの仏様)のように、接頭辞「オ」、接尾辞「サン、サマ」が多用される。

17. ○ミト<sup>カ</sup>コーモンサ<sup>ン</sup> ナ。ミ<sup>カ</sup>ヤ<sup>カ</sup>ッ<sup>カ</sup>タ<sup>カ</sup> カ。梶<sup>カ</sup>野<sup>カ</sup>さん<sup>カ</sup>ね。駄<sup>カ</sup>か。

18. ○ソレオ<sup>カ</sup> カケテ<sup>カ</sup> オウチ<sup>カ</sup>デ<sup>カ</sup> オヤド<sup>カ</sup>シテ<sup>カ</sup> ソ<sup>カ</sup>ノ<sup>カ</sup> オツトメサン<sup>カ</sup>オ

ミンナ<sup>カ</sup>ガ<sup>カ</sup> ヨッテ<sup>カ</sup> シマ<sup>カ</sup>ス。ソ<sup>カ</sup>シテ<sup>カ</sup> アク<sup>カ</sup>ル<sup>カ</sup>ヒ<sup>カ</sup>ー<sup>カ</sup>ワ<sup>カ</sup> マタ<sup>カ</sup> ソ<sup>カ</sup>ノ

「イ」エ「カ」ラ ツギノムラエ 「オタチニナル。それを(仏様の掛け軸) 掛けてお家でお宿して、そのお勤めをみんなが集まっています、そして明くる日はまたその家から次の村へお立ちになる。

(5) 文例19のように「スマンケド」「チョット」などを添加すると丁寧になる。

19. ○「スマンケド」「チョット」「ワタ」イ カ「ワリニ イッテモラエマセン」カ。  
すまないけど、ちょっとわたしの代わりに行ってもらえませんか。

(6) 文例20は項目38での説明である。一方的な誘いではなく、相手への気遣いを抱きつつの誘い掛けであることが分かる。こうした心的な態度が言語表現の基底に存し、個々の待遇表現をつむぎだしている。

20. ○「ヨー」ジガ アッテ 「イケント」カ カラダガ 「ド」モセンデ 「イケント」カ  
マー 「ユー ヒ」トガ 「ノコラハリマス」ワ「ナー。」「アンマリ」ム「リニ  
シー」テ 「イッテクレト」ユーコトワ イ「ーマセン。」「イケル オカタダケ」デ。  
用事があって行けないとか体がどうにもいけないで行けないとかまあ言う人が残られますよねえ。(そんな人には) あんまり無理に強いて行ってくれとは言いません、行けるおがだけで。(行きます)

文例21は、来訪の用件を述べた後の発話である。謙遜とねぎらいの言葉である。

21. ○オハズカシ「ワ。ワタ」シ「ラミタイナモンワ」ナニモ ワカラマセンノ「ニ。  
ナカナカ「ホ」シテ「アン」タ。エンポーカ「ラ」タイヘン「ヤ」ナ。ナニシテ  
「アル」イテ クルハルナ「ラ」ナ「ー。ホン「マ」タイヘン「ヤ」ロ。  
ゴクローサン「デ」ス「ワ。お恥ずかしい、私らみたいな者はなにも分かりませんが、なかなかそしてあなた、遠方からたいへんだね、なにして来られるならねえ、本当にたいへんだろう、ご苦労さまですよ。

文例22は、調査を終えて辞去するときの発話である。つつしみ深い謙遜の言葉が述べられる。調査者こそ感謝せねばならないのに、恐縮するばかりである。

22. ○(調査者; たくさん教えてくださりましてありがとうございました。) ワタシラ「ワカラ」ンデ マ「ー  
「アンマ」セ「ンセ」ユーテクレハ「ッテ」モ「ー。わたしら分らないで、まあ、あまり、先生が言って  
くださっても、(調査者; いえいえ、よく分かりました。)「イ」エ「イ」エ スイマセン「ドー」モ。モー  
「コラ」エテクダサイ。「ワカラ」ンバツカリ「デ。」「セツ」カク「トー」イトコ  
「キ」テモラツタノニ ナーン「ニ」モ モー「コ」タエル コトガ「デキ」マセン  
デ モ「ー」シワケアリマセン。いいいいえ、すみませんどうも、もう我慢してください、分らないことばかりで、せつかく遠  
いところに来てもらったのに、なんにももう答えることができませんで申し訳ありません。

(調査者; 本当にありがとうございました。助かりました。)「イ」エ「イ」エ「オハツカ」シーコ「ッデ」ゴザ「イ  
マス。マタ「キヤ」スー マ「キトク」レ「ヤ」スー。いいいいえ、お恥ずかしいことでございます。  
また気やすく、ま、来てください。(調査者; ありがとうございます)「イ」エ「イ」エ「オハズカ」シーゴ「ザイマ」  
ス。ドーモ ス「イマセン」デシ「タ」ナ。いいいいえ、お恥ずかしいございます。どうもすみませんでしたね。

仏教(宗教的雰囲気)の深く生活の裡に自然にとけこんでいる印象を受けた。琵琶湖の湖北域の言語を見つめる上で大切な事項であると思うので記しておく。

(いのうえひろふみ 大阪教育大学)